

シハヌーク州海洋養殖開発センター（MADeC）完成式典の開催

3月30日（金）、シハヌーク州に於いて、我が国の無償資金協力を通じ建設された、海洋養殖開発センター（MADeC）の完成式典が開催されました。同センターは、海洋養殖技術を発展させることにより、沿岸域住民の生活向上を図るとともに、海産物の国内への供給を増加させ、国民の栄養改善、輸出品目・量の増加に貢献することを目的として建設されたもので、この目標を達成するために①海産魚介類の種苗生産、②優良親魚の研究開発及び供給、③養殖技術の開発及び④養殖技術の普及・指導を活動目的としています。

同式典には、大使館から黒木大使が、カンボジア側からイム・チャイリー副首相、チャン・サルン農林水産大臣、スバオン・サラット・シハヌーク州知事に加え、約1,900人の関係者や地域住民の方々が出席しました。

式典では冒頭、チャン・サルン大臣より、海洋養殖開発センター設立・建設までの経緯につき説明があるとともに、「本センターは、科学的情報の提供を行う最も重要な役割を担うことになり、また、海洋養殖に係る技術的顧問とも位置づけられ、貧困削減、食料安全保障、海岸地域の住民及び漁業関係者の生活向上のために海洋養殖を管理する新たな拠点となる。農水省を代表して、2011年3月の東日本大震災を経て現在復興の途上である中で大規模な無償資金協力を行ってくれた日本国民及び政府に深甚なる感謝を申し上げます。」旨述べました。

続いて、黒木大使から、「今回建設されたセンターは、基礎的海洋養殖技術の研究活動、管理者及びその他関係者の訓練並びに種苗の生産・配布を通じ、カンボジアの海洋養殖分野の発展に資するであろう。同センターが沿岸地域住民の海洋養殖を促進し、沿岸部の海洋資源環境保護に資することを期待する。日本政府は本プロジェクトに加え、ポーサット、バットンバン、シアムリアップの各州に於いて養殖者への訓練を通じ淡水養殖開発のための技術協力を実施しており、海水・淡水養殖両方への日本の支援が地方及び沿岸地域住民の生活を向上させ、カンボジアの国民により多くの海産物が提供されることを期待する。」と挨拶を行いました。

黒木大使に続き挨拶を行ったイム・チャイリー副首相は、「技術協力、資機材、社会インフラ整備のための資金やその他多くの分野において常に支援を頂いている日本政府及び国民の皆様には深甚なる謝意を表したい。全てのカンボジア国民及び政府指導層を代表して、2011年3月の東日本大震災の被害者に対し、心よりお悔やみ申し上げます。今回の日本政府及び国民からの貴重な無償資金協力は、カンボジア国民の胸に、また、カンボジアと日本両政府及び両国民の友好・協調・協力関係の歴史に刻まれることであろう。」と述べました。

式典はテープカットで始まり、最後に、建設されたセンターの各施設をイム・チャイリー副首相、チャン・サルン大臣及び黒木大使が視察し、終了しました。

（次項に式典時の写真を掲載）



テープカットの様子



インタビューを受ける副首相と大使



式典の様子



式典に参加した関係者及び住民



管理研究棟視察の様子



水槽棟視察の様子